



堀岡 敏喜 議員  
公明党

# 問 動物と共生、殺処分ゼロ目指せ

## 答 獣医師会等と協力し啓発進める



**問** 殺処分ゼロを目指し、地域猫対策や不妊去勢手術費用の補助など、近隣自治体との連携を含め、市の見解は。

**答** 民生部長 考えていくべき問題と認識。近隣市町村と情報共有し、動向に注視し、取り組んでいきたい。

**問** 命の大切さと他者への思いやりの心を育む「動物ふれあい授業」。現状と市の認識は。

**答** 学校教育課長 現在、5小学校で愛知県獣医師会の先生を講師に招き実施している。今後も推進していきたい。

**問** ペット飼育世帯への防災の啓発は、地域における事前防災の取り組みの活性化に繋がる。市独自のペット防災マニュアルの策定や殺処分ゼロ対策も含め、獣医師との応援協定を締結すべきと考えるが市の対応を問う。

**答** 総務部長 大変意味あるものであり、検討していきたい。

**答** 市長 マニュアルを定めている先進市町を検証していく。但し、災害時、原則はペットとの同居は難しいと考える。

**問** 2025年問題、市民と課題の共有を

**答** 市民との連携・意識向上を図る

えていきたい。  
**問** 認知症サポーター養成の現状と課題、今後の展開について問う。

**答** 民生部長 今年度は養成講座を11回開催。今後は今年度市職員対象に、29年度は中学校での開催を予定。企業、民間事業所で進んでいないのが課題。

**問** 地域見守り体制の構築に向け、市の見解は。

**答** 介護高齢課長 民生委員中心にお願いし、中電、新聞販売店、配食サービス、警察とも連携している。今後事業所への働きかけ、認知症サポーターの拡大を図る。

**答** 介護高齢課長 「地域包括ケアシステム」の構築が最重要。今後は在宅医療において海部医師会との連携を強化する。

**問** 高齢者・障がい者・子どもなど対象者に関わらず相談支援などを包括的に行う仕組みや、これらに必要な福祉人材の育成などの取り組みは。

**答** 市長 行政縦割社会と言われる。横の連携を考

▶認知症ステッカー(例)

